東本願寺ロサンゼルス別院
編集責任者　輪番 伊東憲昭
み　ち
第 75 巻 2 号
2023 年 2/3 月号

教団の歩みとその願い

東本願寺北米開教監督部
長谷川智行

今年三月から四月にかけて、いよいよ親鸞聖人御誕生八百五十年、立教開宗八百年慶讃法要が京都のご本山でお勤めされます。浄土真宗の各派でお勤めされる五十年に一度の大きな行事です。大部分の宗派では今年この慶讃法要をお勤めしますが、中には別の年に勤める派もいくつかございます。真宗各派の中でも、私達の教団である真宗大谷派（東本願寺）と浄土真宗本願寺派（西本願寺）は、徳川の幕政が始まる前までは「本願寺」というお寺として真宗の教えを受け継ぐ一派でした。本願寺の源流まで遡りますと、教団の歴史は七百五十年近くの長きにわたることになります。その間、それぞれの時代のうねりに巻き込まれながらも、今日まで教団は受け継がれてきました。その社会的な形は時代によって変化がありますが、その歴史の底流には一貫した深い願いがあるように感じられます。

本願寺の源流をたずねていきますと、今から約七百五十年前に京都の東山に建てられた小さな廟所に遡ることができます。浄土真宗の教えを顕かにされた親鸞聖人は晩年、京都の善法院という場所を在所とし、末娘の覚信尼（かくしんに）が身の回りの世話をしていたと考えられています（異説もあります）。そして弘長二年十一月（グレゴリオ暦に換算すると一二六三年一月）に九十歳で聖人は入滅されます。聖人亡き後、その遺骨は京都東山の大谷という地に葬られました。それから約十年後、覚信尼とその夫である小野宮禅念（おののみやぜんねん）が、門弟達の協力を得ながら、自分達の所有する土地に聖人のお墓を移し、「御影（ごえい）」、つまり聖人の在りし日の姿をかたどった像を安置する廟堂を建てました。その地に各地から門弟達やかつて勧化を受けた人々が集い、聖人の恩徳に報謝し、自分自身の聞法の歩みを確かめる場となっていったと伝えられています。さらに数年後、禅念亡き後、覚信尼はその土地を門弟達に寄進したのです。この廟堂が真宗門徒にとっての、聖人の遺徳を偲び、教えを尋ねていく上での象徴的な場所となりました。どのような時代でも、人間にとって先達の恩徳に報謝し、その願いに自らを照らすということには非常に重要な意味があるということなのでしょう。

覚信尼は、この廟堂が自分や家族の私有物ではなく、あくまでも門弟達の共有の財産であり、共同で守っていくものであるということを、門弟達に宛てた手紙の中で明確に示しました。そのお手紙には「志んらん上人のゐ中（坂東―関東を指しています）の御てしたちの御なかへ」と宛名が書かれ、「まつだいまでも、御はかをまたくせんために」と寄進の目的が明確に記されています。そして、普段京都から離れた関東地方にいる門弟達の代理として廟堂を守り続けました。この代理

行事予定

二月

二十六日　日曜礼拝

三月

五日　三月祥月法要
六日　寺院基金調達ゴルフ大会
十二日　日曜礼拝・話し合い
十九日　春季彼岸会・春季セミナー
二十六日　日曜礼拝

四月

二日　四月祥月法要
九日　仏連花まつり（別院休み）
十六日　花まつり家族礼拝
二十二日　慶讃法要（京都本山）
二十三日　（別院休み）
三十日　日曜礼拝

の役割は後に「留守職（るすしき）」と呼ばれるようになります。現存している歴史的資料から判断する限り、覚信尼が親鸞聖人の教えをどれほど理解していたかについては不明な部分も多くありますが、彼女のこの事績を見る限り、いかなる階層の人々とも共に念仏道を歩まれた親鸞聖人の精神を継承し、目に見える形で表されたと言うことができると思います。覚信尼は誰もが親鸞聖人に遇うことができる場としての存続を願い、廟堂を建てられました。そして、これが本願寺の教団の始まりとなります。

やがて覚信尼の孫である覚如上人は廟所を「本願寺」（最初は「専修寺」と称した時期もありました）という寺院に変え、親鸞聖人から如信上人（聖人の孫、覚信尼の甥）と続く「正統」な法統を受け継ぐ身として自らの立場を位置付けました。廟堂の寺院化や、血統をもって法統とし、それをもって留守職の役割とするということには、覚信尼の廟堂建立の願いから離れた面も確かにありました。しかし、各地で様々な理解をもって真宗の正統を名乗る集団が数多く生まれつつあった状況の中、法義を相続するためには、そうすることがやむを得ない面もあったのではないかと思います。

そして、覚如上人以降数代に渡り、彼らは北陸、摂津、河内、山陽など各地方に足を運び、教線を伸ばしていかれました。しかし、十五世紀初頭に蓮如上人がお生まれになった頃には本願寺の教勢は佛光寺など他の真宗寺院に遅れをとり、寺院としての存続も楽観視できるものではありませんでした。しかし、そのような状況の中第八代留守職を継承した蓮如上人のご苦労と教化により、それまで地道に築かれてきた教線が飛躍的に発展し、また同朋教団として新たな形で覚信尼の廟堂建立の願いが実を結ぶこととなったのです。そして戦国時代を生き抜いた第十一代顕如上人の時代を経て、第十二代教如上人の時代に入り、度重なる戦の荒波に翻弄されつつも、僧俗一体の聞法道場としての精神が継承され、京都市の現在地に東本願寺が建立されるに至りました。

長い歴史の中で、それぞれの時代の要請や制約の中、教団は形を変えつつ相続されてきましたが、いかに時代を経ようとも、覚信尼の願いは現代まで脈々と受け継がれ、今日まで生き続けているのです。

東本願寺の御影堂は世界最大級の木造建築物の一つと言われています。教如上人の時代、一六〇三年に現在地に建立されて以来、四度の火災により焼失しながらも、その度に全国のご門徒のご尽力により再建されてきました。現在の御影堂は一八九五年に再建されたものです。建築機械もない時代に、全国から集まったご門徒によって人力で建てられましたが、百年以上も前に建てられたとは思えないほど高度で精密な設計思想をもって造り上げられた建物です。木材やその他の建築材料は全国から寄付され、巨大な木材の運搬においては何人もの命が事故で失われました。幾多の困難にもかかわらず、これほど見事な建築を可能にしたものは、まさしく全国のご門徒の、本願寺が時代を超えて誰もが親鸞聖人に遇うことのできる場であり続けてほしいという懇念でありましょう。その懇念の中にこそ、親鸞聖人の末娘、覚信尼の願いが生き続けているのです。

私達が常日頃法縁をいただいているお寺は、二十世紀初頭に移住してこられた一世の方々のご苦労によって建てられたものですが、そのご縁を訪ねるとさらに長い歴史の流れがあります。こうした法縁が現代にまで伝えられてきた歴史を振り返り、その歴史に通底する願いを尋ねていくことは大変大切なことであると思います。またそのことこそが、私達を生きる「いのち」への目覚めのきっかけになると私は確信するのです。

慶讃法要を皆様とご一緒にお勤めし、念仏道の新たな一歩を共にすることを楽しみにしています。

輪番より

人生は良きものであり、また苦しくもある

何年も前、私がオクシデンタル大学で仏教の学習会を指導していた頃のことです。会の代表の一人にニューヨーク出身のダニエルという学生がおり、とても熱心な仏教徒でした。私達は週に一度顔を合わせていましたが、ある日、私は「人生は良きものなり」と書かれた帽子を被って会場に入りました。ダンはその帽子を見るなり、「ノリ先生、その帽子は何ですか？いつも人生は苦だとおっしゃっているのに」と言いました。私は「うん、そうだよ。でも苦の最中からも時に良きものが生ずることもあるんだ」と答えました。

先月から私達の近隣で大変痛ましく悲しい事件が起こりました。お寺のご門徒の多くがモントレー・パーク、モンテベロ、そしてサンゲイブリル・ヴァレーの各地区に在住しています。一月二十一日、土曜日の夜、旧正月のお祝いを終えた人々がダンスホールでダンスを楽しんでいたところに銃で武装した男が侵入して発砲し、十一人が負傷したのです。この悲劇はアジア人に対する憎悪による事件とは断定されませんでした。何故なら容疑者は被害者の方々全員と同じく中国出身だったからです。

その二日後、北加のハーフ・ムーン・ベイで農場労働者七人が殺害される事件が起きました。容疑者は再びアジア出身者でした。また同時期に二人の黒人が命を落とす事件も起きたのです。テネシー州メンフィスのタイリー・ニコルズさんとロサンゼルスのキーナン・アンダーソンさんです。二人とも警察に身柄を拘束されている時に殺害されたのです。二月末にはロシア連邦によるウクライナ侵攻が始まってから一年が経過します。罪なき人々が殺され、傷を負い、多くの街や家が破壊されるという状況が続いています。国内であろうと、遠く離れたウクライナの地であろうと、暴力を止めるため、できる限りのことをなさねばなりません。銃の入手を制限し、特に殺傷能力の高い武器の流通は禁止すべきです。

このような出来事を毎日のように目にし、耳にするということは極めて悲しいことです。また人生は喜びと共に、悲しみ、苦しみにも満ちているという仏教の教えを身をもって教えられる機会でもあります。仏法はいかに否定的で痛ましいことであろうと、出来事を出来事として受け入れるということを教えてもいるのです。同時に人生は一瞬一瞬変化し続けていくとも教えています。ですから、どのような否定的な出来事も学びの機会として捉えるべきということです。むしろ痛ましく、悲しい出来事からこそ、私達は真に学び、成長することができるのです。ですから、私がダン等生徒達に語ったことは、良いことも悪いことも全ての出来事を受け入れる、それも感謝をもって受け入れることが大切だということです。

もうすぐ七十五歳を迎える私の年齢になると、過去の失敗や苦しい経験が数多く心に残り、思い起こされます。しかし、また人生は素晴らしい旅でもありました。願わくは、あと数年だけでも、家族や法友の皆様と楽しく時を共にしたいと願っています。

今春、京都のご本山で厳修される宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年、立教開宗八百年慶讃法要を楽しみにしています。また法要のテーマである「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」の意義について深く考え続けていこうと思います。私達は仏から他の全ての人々や生きとし生けるものと共に人として生きていく意義を見出していくことが願われているのだと思います。このことが私の残された人生において問い続けなければならないことであると感じています。二〇二三年が皆様にとり、素晴らしく、目覚めの年となることを念願しております。

合掌
伊東憲昭

最近の行事

年末行事

昨年十二月十八日（日）の大掃除には多くのご門徒の皆様にお手伝いにお越しいただき、一年の行事を締めくくり、新年を迎える準備を整えることができました。皆様には台所、地階ホール、各教室、本堂、玄関広間、境内を清掃いただき、お寺が素晴らしく綺麗になり、新年を新たな気持ちで迎えることができました。お手伝いいただいた皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

残念ながら餅つきは中止となりましたが、今年は再開できることを願っております。除夜会は従来通り、対面と配信の同時開催によりお勤めしましたが、年越しそばは今年も中止となりました。法話では、過ぎゆく年を振り返り、新たな年の課題や願いについてのお話しをいただきました。

修正会

二〇二三年元日午前十時に修正会を対面、配信両方式によりお勤め致しました。各僧侶より新年の挨拶が述べられ、より良き年となる願いをもって新たな一年の始まりとしました。恒例の法要後の交歓の場は今年も持つことはできませんでしたが、二〇二三年が皆様にとり良き年となることを別院一同、心より念願しております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

永代経法要・総会

二〇二三年の永代経法要には多くの方々にご参拝いただき、今は亡き先達を共に偲ぶことができました。ご講師として木越康大谷大教授をお招きし、英語と日本語でご法話をいただきました。

本年、第百十八回目の総会となり、また三年ぶりの新年会開催となりました。会場には日系人博物館のアラタニホールをお借りしました。昼食として、アロハ・カフェ提供の焼豚とカルビチキンの組み合わせのお弁当を楽しみました。また、ドリンクバーも設置され、理事やメンバーの面々の手作りによるデザートも用意されました。

総会は理事長のウェイン糸賀さん、伊東憲昭輪番の挨拶により開始されました。別院の活動報告、会計報告、本年度理事承認が、伊東輪番、ゲイリー・カネモトさん、デイヴィッド池田さんよりそれぞれなされました。本年よりペニー村田さんが理事長、アイリーン・オオタさんが副理事長、ジェイソン・ワンさんが経理担当に新しく選出されました。また新しい理事としてヘザー・バーボッドさん、ローラ・ヤマシロさんをお迎えしました。

伊東輪番、ウェインさん、ペニーさんより昨年特にご功績のあった方々を紹介し表彰しました。また昨年まで理事長としてお寺を支えてくださったウェイン糸賀さんに特別の感謝の意が表されました。その後、伊東信さんより余興として卯年にまつわるゲーム、そして過去三年のスライドショーの披露やラッフルのドアプライズのプレゼントが行われました。

総会、新年会で司会を務めて下さった信さん、そして昼食会を計画実行して下さった理事の皆様に感謝申し上げます。またイレイン原田さん、シャリリン・ジュンさんには八十歳以上の方々への贈り物や各座席の美しい花飾りをご用意いただきました。また原田さん、シャリリンさん、池田ご夫妻、ジャネット伊東さん、グレース・ヤマシロさん、アイリーンさん、リサ・シマモトさん、ペニーさん、伊東見華さん、スーザン柏原さん、ロン・サトウご夫妻、伊東紀瑳さん、トリッシュ・ニコルソンさん、ダニー先生にはドアプライズをご寄付いただき、ここに御礼申し上げます。また、デザートをお作りいただいた方々は、ウェインさん、グレースさん、アイリーンさん、紀瑳さん、ステイーヴ・ナカソネさん、ペニーさん、スーザンさん、ジャネットさん、リサさんです。ありがとうございます。ルンビニ幼稚園のレスリー先生、ジャック先生、ダニー先生を初め、数多くの皆様に会場準備、後片付けを行っていただきました。皆様のご尽力により、楽しい新年会となり、美味しい食事を皆で楽しむことができました。この場をお借りして、改めて心より御礼申し上げます。

行事のお知らせ

春季彼岸会 春季セミナー

今年の春季彼岸会を三月十九日（日）午前十時よりお勤めします。また春季セミナーを同日午後一時より開催します。お寺にお越しになる方はワクチン接種証明又は検査陰性証明、マスクをご持参下さいますようお願い致します。法要はフェイスブック、セミナーはズームを用いて同時配信も致します。いずれの方法でもご自由に参加いただくことができますので、どうぞお誘い合わせの上、ご一緒にこの伝統行事をお勤め致しましょう。

羅府仏連花まつり

本年のロサンゼルス仏教連合会主催による花まつりを四月九日（日）午前十時より西本願寺別院にて開催します。今年の担当は浄土宗です。同日、当別院での日曜礼拝はお休みとなります。どうぞ仏教連合花まつりにご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

同朋のお悔み

（二〇二二年）
シェパード 夏恵 様
十二月十五日 御命終
行年五十六歳

中西 巌 様
十二月十七日 御命終
行年八十三歳

（二〇二三年）
露木 サツキ メリー 様
一月十五日 御命終
行年九十九歳

徳永 須美子 様
一月二十八日 御命終
行年九十六歳

謹んで哀悼の意を表します。